

## IMF 会長からのメッセージ

### 親愛なる読者の皆様

#### IMF 会長からのメッセージ

### 親愛なる読者の皆様

1998年、私たちはワシントン DC を訪れ、米国連邦議会で行われた民衆レベルとしては初めてとなる、がんの大イベント「The March」に参加しました。様々ながんのグループの代表者 100,000 人以上がナショナルモールに集いましたが、そのうち IMF と骨髄腫のコミュニティの代表者は約 400 人でした。まばゆい陽光の下で、Cokie Roberts 氏、ヨルダンの Noor 女王、Sam Donaldson 氏、Al Gore 氏をはじめとするスピーチを聞き、非常にすばらしい午後を過ごしました。それは私個人としても、がんのコミュニティ全体にとっても大変有益な時となりました。なぜなら、それを契機に米国国立衛生研究所（NIH）の予算が 5 年間で倍増することになったからです。そしてこれが IMF 啓発プログラムの誕生の時でもありました。

私たちは IMF の Advocacy Director(相談役?) である Greg Brozeit 氏に導かれ、間もなく、ワシントンでのがんコミュニティの興味を代表するような様々なグループに参加しました。このグループには One Voice Against Cancer(OVAC)、Cancer Leadership Council、National Coalition of Cancer Research、C-change (前 National Dialogue on Cancer) が含まれていました。私たちは、骨髄腫コミュニティがワシントンで行われる健康関連の議論において存在感を示せることを目標に努力を重ねました。

2002年、IMF は OVAC に所属する 40 のがんグループと一丸となって、一つの重要なメッセージを議会に届けました。「がんとの闘いに必要な資金提供を！」と。私は OVAC を代表し、上院公聴会の前に、全がんコミュニティの代弁者として証言する役を仰せつかりました。私と一緒に証言したのは、Huerta 博士、Heberman 博士、脳腫瘍患者 Mike Bruene 氏、AOL タイムワーナーの会長兼 CEO である Steve Cace 氏でした。

それは、私が IMF やがんコミュニティのみならず、何らかの病気で苦しむ全ての人を代表していることを知る身の引き締まる経験となりました。その委員会での私の役割は NIH、国立がん研究所（NCI）大統領直轄予算、疾病管理予防センター（CDC）がんプログラムの為の資金提供を要請することでした。

以来、IMF は政策立案者に対して骨髄腫コミュニティの関心事を発信し続けています。私たちは、サリドマイドのような適応外使用に関するメディケア保障や、PET スキャンのメディケア保障等の諸問題と闘ってきました。これら重要な発議はどちらも良い結果につな

がっています。

IMF の主張には今、新たな意義が生まれています。オバマ政権は医療保障制度改革を最優先課題としました。政治的な風向きに関係なく、私たちはこの議論に参加しなければなりません。私たちはあなたの声を聞き、全ての政治的指導者および代議員たちに対して私たちの関心事を主張するため、今日もここにいます。

最も大事なことは私たちがあなたを必要としているということです！ これはあなたの未来に関わることであり、またこれから診断されるすべての患者の未来にも関わることです。

たくさんを知って、参加してください！ そうすれば、IMF の患者の手引き（18 ページ参照）が私たちを導いてくれます。私たちのウェブサイトでは、私たちの主張が書かれた新しいページが用意されています。

今はアメリカの政治史上、貴重な時です。私たちは、何らかの政策が施行される時に骨髄腫コミュニティに何らかの波及があるように、私たちの声を届け、活動していくつもりです。私たちはこの活動をあなたと共に、あなたの為に行う気持ちでいます。

スージー・ノヴィス

出典：「Myeloma Today」2009 年 Summer Volume 7, Number 10

[http://myeloma.org/pdfs/mt710\\_c1web.pdf](http://myeloma.org/pdfs/mt710_c1web.pdf)

翻訳者： 太田

監修者： なし

チェック： 田部さん